

しいたけの廃ホダ木を細断処理し、まいたけの菌床に利活用 [福井県・和泉村]

情報収集官署名：北陸農政局 福井統計情報センター地域課
☎ 0776-30-0851

[取組主体]

名 称 和泉村
取組の範囲 奥越地域（大野市、勝山市、泉村）
開始年度 平成14年度

[補助事業]

交付主体 国、県
補助事業名 林業生産流通総合対策事業（地域林業経営集約化型林業構造改善事業）
計画名 林業生産流通総合対策事業計画

1 取組目的と概要

（目的）

しいたけの廃ホダ木をまいたけの菌床として活用することや、廃菌床を炭化して新たに土壤改良材などに利用することにより資源の有効利用と環境負荷の軽減を図っている。

（概要）

和泉村では、平成14年から奥越地域で発生したしいたけ廃ホダ木や不要となった広葉樹を細断処理したもの（オガコ・チップ）を菌床培地として利用し、まいたけの生産（年間約80t）を行っている。

和泉村を含む奥越地域には、まいたけ栽培の原木となるナラ、クリ、ブナなどの広葉樹が豊富に自生しているが、伐倒された広葉樹を始め、これまで山林内に放置していた廃ホダ木（100kg/日）をそのまま土に返すことなく、まいたけの菌床の培地として再利用することで、資源の有効利用を図っている。

また、まいたけ収穫後に発生する大量の廃菌床（970個/日）を放置せず、炭化処理することで有効活用し、土壤改良材や建築資材等に再生している。



< - 炭化施設 - >

2 取組の効果

（効果）

従来、しいたけの廃ホダ木は山林内に放置されていたが、まいたけの菌床として利活用し、利用後は炭化処理し土壤改良材などに再利用することにより、資源の有効利用と環境負荷の軽減を図ることができた。

3 現在の課題と今後の展開方向

（課題）

廃菌床を炭化処理して再生した土壤改良材等の販路拡大とさらなる用途開発が課題である。

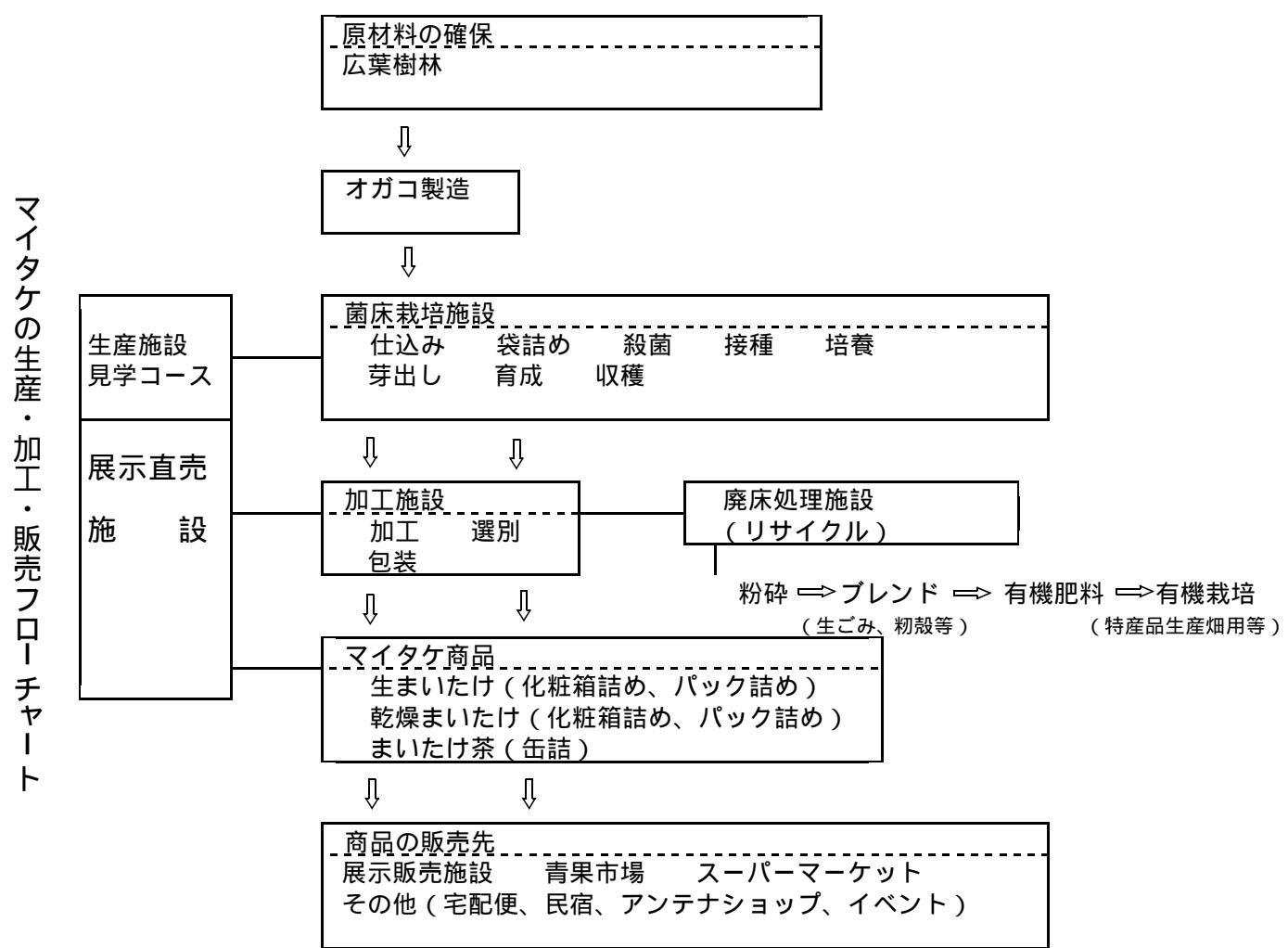
（展開方向）

土壤改良材等をPRし、販路の拡大を目指したい。また、新たな廃菌床の有効利用を検討したい。

「しいたけの廃ホダ木を細断処理し、まいたけの菌床に利活用」の施設概要

施設名称	マイタケ生産工場	設置主体	和泉村
運営主体	(株)昇竜(第三セクター)	施設整備費	400,000千円
主な設備	生産用施設・炭化施設・附帯する機械	稼働状況	24h/日・365日/年

【施設のシステムフロー】



バイオマスの回収と再利用の流れ

バイオマス名	発生源	距離	発生量	収集・運搬方法	施設処理能力
廃ホダ木等	シイタケ原木等	25km	100kg/日	自らが車両で運搬	80m³/h
廃菌床	マイタケ生産工場	0	970個/日	-	970個/日
再生バイオマス名	生産量	再生バイオマスの利活用先			
菌床	970個/日	マイタケ生産工場			
土壤改良材	300kg/日	土壤改良材として田畠に利用			